

今後の講座実施計画及び目標（本年度の口付・テーマ・講師名入りのシラバスを別紙添付）

※シラバスが変更になった場合は速やかに財団までお送りください。

2011年秋学期に開設されたアジア共同体論は2017年秋学期をもって7年目を迎える。この6年間でアジア共同体論は漢陽大学で開設される講座の中でも屈指の人気講座になり正規単位科目として認められた。我々、アジア共同体論を運営する立場としてこれを維持すべく今後も政界情勢を把握しながらアジア共同体論の理念にふさわしい専門家を招聘し、学生たちとともにアジアのアイデンティティ、アジア的価値、共同体の推進方法、課題の解決方法、協力の在り方などを理解する努力を続けていく。またアジア共同体が域外の国家にどのような影響を及ぼすのか、また域外の国家がアジア共同体に何を展望するのかについても研究対象としていく。これに従い次学期ではアジア共同体構成国家はもちろん域外国家の専門家を招聘した学術会議の開催を計画する。講義日程は以下のとおりである。

講義日程

- 第①講：なぜアジア統合なのか？(キム・ユウン漢陽大学教授)
- 第②講：東アジア地域統合と韓国(キム・ユウン漢陽大学教授)
- 第③講：中国のアジア共同体構想(ムン・フンホ漢陽大学教授)
- 第④講：日本の東アジア共同体構想と展望(長嶺安政駐韓日本国大使)
- 第⑤講：アジア共同体と市民社会・NGO(チュ・ソンス漢陽大学教授)
- 第⑥講：アジア統合における韓流の役割と重要性(ペ・ヒョンチャンCJジャパン前代表)
- 第⑦講：東アジアの安全保障と北朝鮮(ホン・ヨンピョ統一部長官)
- 第⑧講：アジア共同体におけるインドの役割と課題(ラフル・ラズ世宗大学教授)
- 第⑨講：世界・アジア・日本：日本再考察(イ・ガンミン漢陽大学教授)
- 第⑩講：世界の発見：アジア共同体(ラ・ジョンイル嘉泉大学碩座教授)
- 第⑪講：東アジア共同体におけるエネルギー安全保障の主要課題(キム・ヨンギョ漢陽大学教授)
- 第⑫講：アジア共同体域内歴史葛藤と和解に向けた各国の立場と努力(ホン・イクピョ共に民主党国會議員)
- 第⑬講：EU統合から見た東アジア統合構想の課題(チェ・ジヌ漢陽大学教授)
- 第⑭講：アジア共同体とユーラシア構想(オム・グホ漢陽大学教授)
- 第⑮講：期末試験および講義レポート提出

以上、講義日程だがこのほかにも外国人留学生を対象として国内外のアジア共同体専門家とともにアジア共同体の方向性などについて議論をする外国人ワークショップを計画している。

※講義日程および内容は講師の都合等により変更になることがあります。

※記入欄が不足の場合は、別紙を添付してください。